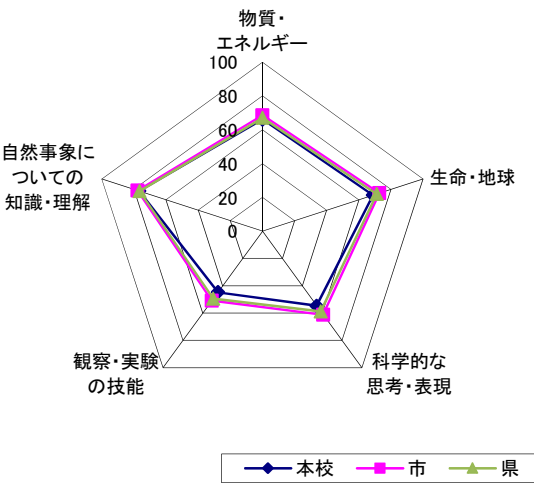


宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.1	68.6	67.0
	生命・地球	68.8	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	54.6	61.2	58.8
	観察・実験の技能	44.7	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	76.8	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は66.1%で、県平均より2.5ポイント低い。 ○正答率が高かった設問は、「閉じ込めた空気と水を圧す時の体積の変化を推測する」であり、正答率97.4%と県平均を14.1ポイント上回っている。他の設問「ポットを押したときに湯が出る理由がわかる」や「へこんだビンポン玉が元の形に戻る理由がわかる」なども、県平均を上回っており、学習内容が児童に定着しているものと思われる。 ●「結果から金属の棒の温まり方について説明する」設問の正答率は10.5%と低く、県平均より15ポイント下回っており、自分の言葉で説明することに課題がある。 ●領域の平均正答率は68.8%で県平均より3.9ポイント低い。	・授業においては、日常生活の事象と関連付けて予想を立てることを重視し、科学的なものの見方を高めていくようにする。 ・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。系統的な学習をさらに充実させることが必要となる。 ・実験では、「予想→実験→結果および考察」という過程を習慣化する。その中で自然事象に対する科学的な考え方を養うよう指導する。 ・学習したことを自分の言葉や文章で表現する習慣をつけることで、科学的思考及び表現力を高めるようにする。
生命・地球	○正答率が高かった設問は、「天気の様子から一日の気温変化の様子を推測する」であり、正答率94.7%と県平均を上回っている。他にも月の動きや太陽の動きについての設問は県平均を上回っている。 ●領域の平均正答率は、68.8%であり県平均より2.3ポイント低い。設問別では、「グラフをもとに地面の様子と気温についての考察する」設問は県平均より13.0ポイント低い。「星座の動きをとらえるために適切な記録方法が分かる」設問は県平均より19.7ポイント低い。	・理科の学習が好きな児童は多いが、学習内容が未定着な児童も見られる。そこで、内容を理解させるための必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための個別指導を繰り返し行う。 ・「月と星」では、星座早見盤を使って自宅で観察できるよう操作を指導する。操作方法の習熟を図るために保護者に協力を依頼し、夜間の観察が行えるよう働きかける。